

「香港中文大学サマースクール 参加報告書」

京都大学経済学部 2年 武隈源太郎

本プログラムに参加する前から中国語の勉強は自分でやっていた。しかし、学んだ中国語をコミュニケーションツール使う機会が圧倒的に不足していたため、一般的に語学において日本人が苦手とする、聞く、話す能力のレベルが低いままであった。公文書などや論文でも用いられる英語とは異なり、中国語は実際のコミュニケーションの場で用いることができなければ学んでも意味がないと考えていた。そのためこのプログラムにおいては語彙力や文法力の強化というよりは、いかに中国語を話せるようになるかというところに重点を置いて学習に取り組んだ。中文大学での授業では、自分がギリギリ聞き取れるか聞き取れないかというスピードで講師が授業を展開したため、耳がまず鍛えられた。また、授業の中では発言が多くもとめられ、とっさに自分の言いたいことを言うという訓練ができたと思う。

また、数回程度現地の大学生と交流する機会を持てた。彼らは広東話を母語とし、普通話を母語としては習得していない。そのため普通話を母語としない者同士が普通話を介して交流するという貴重な体験を得られた。発音になまりがあまりなく、1音節ずつはっきりと話すので日本人の耳には聞き取りやすいと思った。お互いに意思疎通において言葉の壁を抱えながらも、何とかして伝えようとしあうという経験ができたのは大きいと思う。プログラムでは授業のほかに、香港の中心部、深圳、マカオに行く機会があった。深圳、マカオは香港とあまり距離がないことにもかかわらず異なった街並みで、歴史や文化、政治制度の違いを感じ取れた。普通に香港に旅行をしに行った場合なかなか行く機会がない2つの都市に行けたことは貴重な経験だと思った。

このプログラムを通して一番大きかったことは普通話をもちいて会話をする楽しさである。これが中国語を学習する上での原動力になると思う。日本に帰国してからも語彙力や文法力をつけて、さらに表現の幅を持たせられるようにするとともに、リスニング・シャドーイングを繰り返し行うことによって会話能力もつけたい。定期的に語学検定を受けることによって年内に HSK5 級および中国語検定準2級を、年度内に HSK 6 級および中国語検定2級を取ることを目標にして学習を進めたい。2年生のうち中国語を、スキルとして履歴書にかけるレベルにもっていくのが目標だ。将来の就職先としては外交官や、商社、銀行員などを考えているが、そのどれにおいても中国にかかわる仕事をしたいと考えている。現地の人と交流するためのツールとしてこれからも継続的に中国語を学習していきたい。